

南大東ハンド 2年で大躍進

自主性育み、県大会準V

南大東小中学校の小学生でつくるハンドボールのクラブチーム、「南大東スポーツクラブ」がめざましい活躍を見せている。発足から2年足らずで、21日に開催された県大会「第16回沖縄県ブランド工業杯争奪」で初出場ながら2位に輝いた。自ら考え、話し合うことを重視する指導方針で、主体性を育てている。

チームの発足は2023年 南大東村教育委員会と、元が立ち上げた。9月。運動がしたいと望む子どもと親の受け皿として、競技経験者として赴任していた名嘉たももが、ハンドボールの動きが子どもたちが好む動きと合っていることを発見。指導方針で、主体性を育てている。



守備をかわしてシュートを決める南大東スポーツクラブの選手。21日、沖縄市の県総合運動公園体育館（高橋豊帆撮影）

活動継続へ、指導者育成も



男子準優勝に輝いた南大東スポーツクラブ。21日、沖縄市の県総合運動公園体育館（高橋豊帆撮影）

たちは競技にのめり込んだ。と1点まで迫る大接戦だった。準優勝の快挙に、男子チームに混じって主力として活躍し、決勝でも3得点した左サイドの小濱椋斗（6年）は「諦めずにハンドをやっていた良かった。試合では声かけや思いやりを大切にしたい」と振り返った。

クラブは現在、小学生を対象に、中学校に進級した子どもを受け皿や一部活動の地域移行を見据え、U15のチーム発足も視野に入れている。島内でも継続して活動するため、指導者にスタートコーチの資格を取得してもらうなど後継者育成も行う。主将の山内煌（6年）は「ハンドボールはどの競技よりも一乗業しい。これからも続けたい」と話し、小濱は「中学も続けてフットボールまで目指したい」と意気込んだ。（高橋豊帆）